

プロジェクトリーダー：金城学院大学 国際情報学部 畠山研究室 西塚早咲

事業実績調書

(1) プロジェクト名	循環型再製学校
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	
<p>2022年度プロジェクトでは「コンポストによる生ゴミ排出量の削減」「地域住民への農業体験の機会創出」を成果として挙げられる。</p> <p>「コンポストによる生ゴミ排出量の削減」に関しては、トライアル期間では（300g×60日間×8人＝）144kg、改善後の期間では（300g×60日間×10人＝）180kgを削減することができ、計332kgの生ゴミを堆肥に還元することができた。本来ならばゴミ袋に捨てられてしまう生ゴミをコンポストバック・バケツに投入することで使用するゴミ袋も減らすことができ、環境にも配慮した生活を行うことができる。トライアル期間では、コンポストバックに関する改善点が多く出現し、改良と試作に時間がかかったが、現在は課題も乗り越えることができ地域住民の方が気軽に行えるプロジェクトとなっている。</p> <p>「地域住民への農業体験の機会創出」に関しては、旧道泉小学校の畑を中心に、利用できる状態まで整備を行った。その際には道泉連区の方にもお力添えをいただき、利用できる状態まで整えることができた。5月にはさつまいもの苗を植え付け、11月にはコンポスト参加者を中心に、子どもや地域住民29人を招待し収穫イベントを行った。収穫イベントでは、参加者である地域住民の子ども達にイベントの主旨をしっかりと説明し理解をしていただいた。さつまいもの収穫に付随して大学芋作りも行い、大盛況に終えることができた。</p> <p>このような成果を創出できた背景には、道泉地域力推進協議会が本プロジェクトに確固たる連携をしてくださったことが理由でもある。当初は試作していたコンポストの失敗点が多くあり、予定していたスケジュール通りに進まなかったが、温かく学生の活動を見守ってくださったおかげで現在の活動につながっている。本プロジェクトの「コンポスト」が地域社会にどのような効果があるのかも重要であるが、地域活動を通して学生が地域の方と密に繋がり協力しあって、地域のために活動する交流ことの大切さを改めて感じた。学生の地域活動の機会創出は成果をあげる上で重要な枠組みだ。</p>	
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	

年	月	日	活動内容
2022	1	12	道泉連区地域力推進協議会の役員の方に「循環型再製学校」の説明 約20名の方に本プロジェクトの概要説明を実施
	2	17	「循環型再製学校」の活動として、地域住民へ協力依頼 地域住民会にて約50名の地域住民に本プロジェクトの概要を説明 地域住民からの意見をもらい内容の改善を検討
	3	14	道泉連区の地域住民に「循環型再製学校」の説明 本プロジェクトの実施内容を変更しトライアルとしての募集
	4	1	「循環型再製学校」のコンポスト基材配布 約1ヶ月間の募集を設けて10名の方が申請 コンポスト基材（コンポストバック、スコップ、紙のマニュアル）を配布し トライアル期間を開始
		3	「循環型再製学校」のコンポスト基材配布 1日と同じく基材を配布
		28	「旧道泉小学校」の畑整備 約2年間放置されていた小学校の畑を地域住民の助けを借りながら整備
	5	23	「旧道泉小学校」の畑整備 約2年間放置されていた小学校の畑を地域住民の助けを借りながら整備
	6	5	「循環型再製学校」の活動一環としてコンポスト回収 トライアル期間初めての回収 問題点が山積みだったため、グループ内で課題解決に向けて会議 さつまいも苗の植え付け作業 畠山ゼミのフィールドである大野瀬より苗をいただき、植え付け
		16	「旧道泉小学校」の畑整備 一度ではできなかったため引き続き畑を整備
	7	21	「旧道泉小学校」の畑整備（7月中3回） さつまいもを植え付けたため一週間に一度草取りを実施
	7	22	トライアル報告会 改善点が山積みであったトライアル期間でのコンポストバックに関してグルー プ内での反省点を地域住民に伝え、どのようにして改善したコンポストバック を作成するのかを会議 地域住民からも改善に向けて意見をもらい、試作の継続
	8	16	「旧道泉小学校」の畑整備（8月中2回） 引き続き草抜き
	10	4	「旧道泉小学校」の畑整備 引き続き草抜き
		25	「循環型再製学校」のさつまいもイベントの準備 さつまいもが順調に育っているか確認 大学芋作りも行うため大学にて試作・調理方法の把握
	11	5	「循環型再製学校」のさつまいもイベントを開催 大人11名、子供18名と、30名近い方々が参加。前半は自己紹介タイムとさつま いも掘り、後半は実際に収穫したさつまいもで大学芋作りを実施

	24	「循環型再製学校」のコンポスト基材配布 さつまいもイベントでの新規参加者獲得により、4名が参加
12	29	コンポスト回収 旧コンポストバックよりも手軽になったため、回収の手間も省くことが可能に
1	22	コンポスト回収 同上
2	18	コンポスト回収 同上

(プロジェクト実施内容)

場所：道泉小学校

配布物：コンポストキットの配布

(道泉小学校の花壇の土と糠を混ぜたもの、スコップ、希望者のみ炭)

スケジュール：上記の通り

広報：チラシ配布によるプロジェクトの周知、LINE公式アカウントにより参加者との連絡

参加人員：畠山ゼミ →5名

トライアル期間→8名

第1回参加者 →10名 (トライアル参加者のうち6名が継続・新規参加者4名)

※市民への周知方法

- ・ どうせん連区の地域住民会にてプロジェクトの説明 (プロジェクトの概要を示したPowerPointとチラシを使用)
- ・ 瓦版 (あったかネット) にプロジェクト内容の掲載
- ・ 参加者による瀬戸市民へのイベント周知
- ・ イベントでのプロジェクト説明・チラシの配布
- ・ 公式LINEでの定期的な活動連絡

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

今後の課題としては、より多くの方々に取り組みを周知・参加して頂くための広報活動、取り組みを参加者にも分かりやすく円滑に進めるための明確なスケジュールリング、農業体験や料理教室などのイベントをより多くの方々に参加して頂くための農業への知識向上、そして新4年生への活動の引き継ぎが挙げられる。またこれらを全て含め、全体的な展望は「取り組みの継続」である。

一般的にカフェや宿泊施設へのリノベーションなどが他の廃校活用として多く挙げられるが、我々のプロジェクトは地域の方々が参加でき、教育の場としての役割を残すことが目標である。歴史ある地域のシンボルを残すこと、そして取り組みの継続こそが今後重要となると考える。